



御正忌報恩講のご案内

阿弥陀さまの大慈悲をあきらかにし

て、私たちに浄土往生の道を示して下

さったご開山親鸞聖人の九十年のご苦

勞とご恩徳を讃え、仏恩報謝の心をよ

せあつて、大切につとめさせていただ

く報恩講。

浄土真宗では、もつとも大事なご法

要です。お誘いあわせお参り下さい。

一月十四日(火) 昼一時半 夜七時

十五日(水) 昼一時半 夜七時

夜十一時

十六日(木) 昼一時半

※ 十六日は親鸞聖人のご命日です。

特に大切に勤めます。

報恩講お斎のご案内

次の通り、お斎のご案内を申し上げます。

【十四日】

「昼」

向山・久原・土手

中村・大竹・市・湯免

下中小野・辻並

「夜」

野波瀬西側

(五〜十三班)

【十五日】

「昼」

豊原・平野・浅田・沢江

上ゲ・殿村・上東方

下東方・小島・町外

「夜」

野波瀬東側

(一〜四班)

室生

※ 十六日は、お斎はありません。

※ 都合の悪い方は、指定以外の日にお参りされても構いません。

お斎受付のお願い

野波瀬の世話人の方は、毎年のように担当

区域の、お斎受付のお世話をお願いします。

年回忌表

2014 (平成 26) 年

昭和 89 年に当たります。

一周忌	2013 (平成 25) 年往生
三回忌	2012 (平成 24) 年往生
七回忌	2008 (平成 20) 年往生
十三回忌	2002 (平成 14) 年往生

十七回忌	1998 (平成 10) 年往生
二十五回忌	1990 (平成 2) 年往生
三十三回忌	1982 (昭和 57) 年往生
五十回忌	1965 (昭和 40) 年往生
百回忌	1915 (大正 4) 年往生

御正忌報恩講とは



親鸞聖人しんらんしょうにんが亡くなられた日をご縁えんとして開かれる法要ほうようです。親鸞聖人は七五〇年も前に亡くなられましたが、聖人がその一生をかけて明らかにされたお念仏の教えは、それを生きる力、そして「よりどころ」とした、たくさんの念仏者ねんぶつしゃを生み育ててきました。私たちの先輩方は、この御正忌ごしょうきという法要を一番大切にされ、人生における本当に尊いとうとことを聴聞されたのです。門徒みんながこの御正忌にお参りすることが、慣わしならでもありました。十五日には、夜の座の後に午後十一時の通夜法座つやほうざもあります。(平成六年までは、十六日朝五時のお朝事あさじまで、徹夜てつやでお番をするお通夜を、極楽寺でも勤めていました。)毎年御命日ごめいにちには、記念写真を撮っています。ぜひ、お参り下さい。



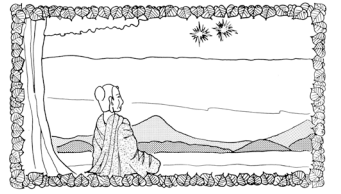
2013年の16日御命日にお参りされた皆さん

お寺のお世話をして下さる、総代・世話人の皆さんです。よろしくお願ひします。

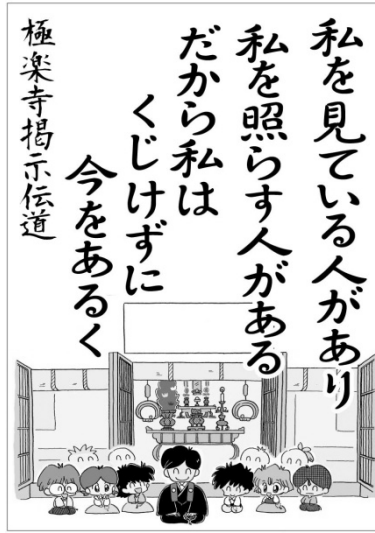
総代長	木村慎治さん(野波瀬)		
副総代長	小林 明さん(豊原)	総代	山中重良さん(豊原)
総代	藤田平二さん(仙崎)	総代	宮崎忠彦さん(野波瀬)
会計	松野行利さん(野波瀬)	監査	野村昭一さん(上東方)
野波瀬西側	斉藤達男さん	市・湯免	吉見周平さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	竹林啓助さん
	宮崎忠彦さん	久原	藤村勇次さん
	青海隆司さん	向山	木村重彦さん
	大田宇三郎さん	上東方	西村一夫さん
	岩本 勉さん	下東方・小島	小林 昭さん
野波瀬東側	河村康昭さん	豊原	山中博道さん
	田村成治朗さん		重岡幸作さん
	石川義文さん		宮本 智さん
	江本富夫さん		石村政一さん
	岩本国久さん	平野	山中洋介さん
辻並・中小野	松並唯夫さん	浅田・沢江・上ゲ・殿村	磯 昭正さん

世話人交代のお知らせ

名和田栄さん 2001(平成 13)年 1 月より 12 年在任 → 新世話人 吉見周平さん
 鼻野直行さん 2003(平成 15)年 9 月より 10 年 1 ヶ月在任 → 新世話人 田村成治朗さん
 黒瀬彰己さん 2006(平成 18)年 6 月より 7 年 5 ヶ月在任 → 新世話人 青海隆司さん
 今まで、本当に有り難うございました。新世話人さん、よろしくお願ひします。



極楽寺揭示伝道 けいじてんどう



1月の言葉

やる気も、そして生きる力さえも起こらなくなるのではないのでしょうか。

飢えた人、病気の人の、誰からもケアされない人のために一生をささげられたカトリックの修道女、マザー・テレサは「人間として一番悲惨

なことは貧しいことでも病気ででもない。自分は今もうだれからも見放されていると感ずることだ」とおっしゃっていたと伝えられています。

しかしそれは、ただ単に周りに人がいる、いないということだけではないのです。二〇〇八年に秋葉原無差別殺傷事件を起こした被害に対し、北海道大学准教授の中島岳志さんは、「コミュニケーションが下手で、友達が

ない若者はたくさんいる。彼はうまくやっている方なのに、彼は孤独だった。問題は友達がい

ないことではなくて、友達がいるにもかかわらず孤独だったことだ」と指摘しておられます。どれだけ人に囲まれたとしても、能力や財産

ば、失ったときの恐怖もつきまといまいます。やはり、私の存在そのものの、よりどころとなるようなまなざしを感じることがなければ、人間はどこまでも孤独なのだと思えるのです。しかし、どんなに温かなまなざしが向けられていたとしても、感じとる心が育てられなければ、

親鸞聖人は、我が身を照らす温かなまなざしを、阿弥陀如来の本願に聞き取られた方

でした。本願とは、「あなたが尊ばれ敬われる仏に成らなければ、私も仏には成りません。その道は既に用意されている。そのことに気づいて下さい。」というメッセージです。つまり、い

くら長い間仏法の歴史があったとしても、あなたが仏に成らなければ、これまでの仏法の歴史は全部意味を失うのだという願いです。そのメッセージを親鸞聖人は聞き取られ、自らのよりどころとし、生きる力にされたのです。

「そんなものが、どこにある。」そう言われ

私のことを見てくれる人がいる。その温か

なまなざしは、人間が生きる上で大きな力とな

ります。誰も見てもくれない、あっても無きが

如く扱われているという状況は孤独であり、

そんな時代ではありませんが、親鸞聖人の生き様に惹かれ、「私にもそのまなざしが向けられているのだ」といただかれた方々の歴史が、お寺を建て、お仏壇を用意し、事実私たちのところまで至り届いているのです。「あなたにも、このまなざしは向けられています。どうか気づいてくれよ。」という願いと共に。

中国には「冷たい飯と冷たい茶は我慢ができません、冷たい言葉と冷たいまなざしには耐えられない」という諺があるそうです。今の世の中、どこに行っても温かいご飯と温かいお茶は手に入ります。チンとすれば、すぐに温まります。そんな自分の周りのものばかり充実させて、人生そのものが充実したのかというと、どうでしょう。温かなまなざしを、そして感じる心を私たちはおろそかにしてきたのではないでしょうか。■



12月の言葉

近頃は、人生を輝かせる方法や言葉に関する本がたくさん出ています。自分の人生を輝くものにしたい！それは、誰もが持っている思いではないでしょうか。しかし、輝かせようとするほど、見えなくなるものがあります。それは自分の陰です。輝きを放とうとするほど周りの陰は見えても、自分の陰が見えなくなります。同じように、自己主張し、自己実現を求めるほどに、人のアラは見えるのですが、自分の

醜い部分、弱い部分、そしてそんな自分を支え、生かして下さる世界は見えなくなってしまうのではないのでしょうか。
源信僧都の『往生要集』に、浄土、阿弥陀仏国に生まれようとするものが、その途中で執られてしまう迷いの世界、懈慢界のことが書いてあります。それは床が七つの宝で飾られている世界なのですが、その国に生まれた者が東を見ると、その視線よりも早く七宝の床が東に、北を見れば北にと床が回り込むのだということです。それは床が回り込むのではなく、自分の都合よく見たいのだけを見、見たくないものから目を逸らす者の生きる世界をあらわしています。陰から目をそむけ、輝く部分だけを見て、うっとり満足する世界。往くべき方向を見失い、座り込んでしまふ世界。それが懈慢界なのだと言われます。

これは、どこか遠いよその世界の話ではない
のでしょうか。自分の人生を輝かせようとする中
で都合のよい部分ばかりを主張して、私を輝か
しめる陰の部分から目を背けて生きる、現代社
会の有り様が、そのまま描かれているように思
えるのです。

人生を輝かせる方法の中で、よく目にするの
が「自分の本当にやりたいことをする」という
ものです。そして、「自分の好きなことを見つ
けよう」「やりたいことを探そう」ということ
が、学校をはじめ、様々なところで言われてい
ます。ところが、それが行き過ぎて「嫌いなこ
とはやらない」「やりたいくないことはやらない」
という考え方にまで及んでいるのではないで
しょうか。

やりたくなくても大切なことはあるのです。
そういう部分ぶぶんを担になって下さる方があるからこ
そ、私たちの生活は支えられているのです。陰
のところところで私たちを支えて下さる方々に、感

謝することも、大切にすることも、いや気づく
こともない生き方とは、薄っぺらうすぺらで心貧しい
生き方です。

それどころか、陰の生き方を馬鹿ばかにし、足蹴あしげ
にしているのかもしれませんが。黒澤明くろさわあきらという
映画監督に「高い木に登って、自分のまたがっ
てる木の枝を一生懸命切っている阿呆あほう」という
言葉がありますが、自分を支えて下さる世界を
大切にしようともしない阿呆あほうになってはいな
いか。ドキッとさせられる言葉です。

自分が、どんな生き方をしているのか。どん
な世界に支えられているのか。それは、私を照
らして下さる世界に出遇であうことがなければわ
からないのです。

親鸞聖人は、

「煩惱ぼんのうに眼まなこさえられて

摂取せつしゆの光明こうみやう見ざれども

大悲だいひ倦ひものうきことなくて

常に我が身を照らすなり」

と言われています。煩惱おぼに覆おほわれて見ること
はできないけれども、阿弥陀如来の光は、常
に常に私たちを照らして下さっている。「倦
(ものう)きことなく」とは、厭あきることな
くという意味です。私が、忘れていても、背そむ
いていても、厭あきることなく照らし続けて下
さっている世界がある。そんな世界に気づか
されていくことが、自分の人生を、周りの人
の人生をより豊ゆたかに尊とうとくいただくいく生
き方を開いて下さるのです。■



極楽寺

ホームページ

<http://極楽寺.com/>



今年一年をあらわす言葉は？



毎年恒例の、一年をあらわす言葉を選ぶ『流行語大

賞』。今年是有力候補が多く、激戦の中で一体どの言葉

になるのかと思っていたら、何と「じえじえじえ」「いつやるの？今で

しょ」「倍返しだー」「お・も・て・な・し」の四つがすべて大賞に選ば

れるという驚きの結果となりました。皆さんはどん

な言葉が心に残られたでしょうか。

私は残念ながら、NHK朝の連ドラ『あまちゃん

ん』を観ていなかったので、「じえじえじえ」には

思い入れがなく、「あまロス」（毎日『あまちゃん』を観る楽しみが無

くなってしまった時の喪失感。）にも縁がありませんでした。

一方、大手予備校講師 林修先生の「いつやるの？今でしょ」には、

色々教えられました。大切なことをついつい後回しにする私、やら

ねばならないことを置いて現実逃避してしまう私にとっては、身

の引き締まるような思いを何度もさせていただきました。

ところが先日、教師をしている同級生からこんな話を聞いたのです。

日曜日の夕方、『サザエさん』を観ていると、生徒の親から携帯に



電話がかかるというのです。緊急のために、連絡網に携帯番号を記載しているのですが、その内容はというと、明日でも、明後日でも、学校にかけたっていいような用件なのだそうです。仕事もクラブも終え、ようやく手に入れたまったりとした時間。ところがそんな先生の立場を考えることもなく、思いついた時に緊急でもない用事で電話をかける。「思いついたら、待つことができないんだよね。」疲れた顔で、同級生はつぶやいておりました。

私たちは、大切なことは後回しにするのですが、腹立たしいことや不安なことがあったら「今でしょ」と言わんばかりに、すぐに行動に移してはいないでしょうか。私は聞きながら、ドキッとしました。自分の思いばかりを優先して、相手の立場を考えない行動は、はつきり

言って迷惑です。ならば、待つ、自分を振り返る、冷静になる、熟考するということは、本当に大切なことであるはずなのに。何でもかんでも「今でしょ」というわけにはいきません。「今すべきことは何なのか」を、よくよく



考えなくてはならないでしょう。

かつて「決められない政治」を批判されていた頃、あるコメンテーターが「スピードばかりを追い求め、悪いことでも簡単に決められる政治になっても困る」と言っていたことが忘れられませんが、議論も尽くさず「今でしょ」と言わんばかりに、重要な法案が決められる現実が、まさにあるのではないのでしょうか。

そして、「倍返し」。ご存知、ドラマ『半沢直樹』の決めゼリフです。この番組は、家族みんなで盛り上がりながら観ておりました。

但し、ドラマとしては面白かったのですが、少々複雑な思いを持ちました。半沢に倍返しさ

れ、土下座させられた人は、そしてその身内はどう思うのだろう。今度は半沢に倍返ししようという気になるのではないか。そんなことを考えてしまうのです。倍返しがまた倍返しを生んでいくと、どこまでも終わることはありません。あくまでもドラマですから、最終回が終わればその連鎖も終わりますが、これが社会現象になると、ブレーキが効かなくなってしまいます。

お釈迦様は、「この世においては、恨みに報いるに恨みをもってしたならば、ついに恨みのやむことがない。恨みは捨ててこそやむ。こ



れは永遠の真理である」（『ダンマパダ』）と言われています。憎しみの連鎖は、憎しみを生み、とどまることがないのだと。泣き寝入りを

しろということでは決してありませんが、ただ憎しみを「倍返しだ!」ということであれば、どこまでも続いていくだけです。

仏教では、憎しみの連鎖を、喜びの連鎖に変えることの大切さを説きます。報復に凝り固まったものの見方や考え方を、柔らかくしたり方向をずらす中で、転じていくことを教えられるのです。

それに、「倍返し」するのであれば、もっとお薦めなものがありますよ。それは・・・、もうおわかりですよね。そう。「お・も・て・な・し」の心です。■



これまで七回にわたって連載してきました、『毎日お参りしましよ
うキャンペーン』。紙面の都合により、そして次の展開について行
き詰っていたこともあり、二回にわたりお休みしております。しか
し、釈徹宗先生のご教授もあり、いよいよ次回から最終章へ入
ることになりました。これまでを振り返りながら、お仏壇の大切
さ、お参りの意味を皆さんと共に味わいたいと思います。さて、体
操の内村航平選手のように、見事な着地で終えることができるの

除夜の鐘つきのご案内

つきはじめ
11時50分



毎年、極楽寺では、おでんを用意して、大晦日に除夜の鐘つきを
致します。熱々のおでんをほおばりながら、新しい年が明けるのを
共に味わいましょう。懐かしい人と再会できるかもしれませんよ。
つきはじめ十一時五十分より。終了後、初参拝のお勤めをします。

元旦会 1月1日 朝10時から



時間は約三十分。家族全員でお参りされる家もあります。ぜひ、お参り
下さい。わが家のお仏壇も打敷をかけて飾り、新年を迎えましょう。

※ 参拝者には、記念品を用意しております。

二〇一四年極楽寺のご法座

- ◆ 十二月三十一日(毎年)
除夜の鐘つき 初礼拝
- ◆ 十二月十八日(毎年)
清光仏教婦人会の報恩講
講師 俵山 正福寺住職 上原泰教師
- ◆ 十一月十七～十八日
秋の永代経法要
- ◆ 九月二十三日(毎年)納骨堂追悼法要
- ◆ 八月十四日～十六日(毎年)盆法会
- ◆ 六月十一日～十二日 夏法座
講師 福岡 戒宝寺住職 原田英道 師
- ◆ 五月二十一日(毎年)
清光仏教婦人会の降誕会
- ◆ 四月十六日～十七日
春の永代経法要
講師 福岡 正善寺住職 原田円城 師
- ◆ 一月十四日～十六日(毎年)
御正忌報恩講
- ◆ 一月一日 朝十時(毎年) 元旦会

ご法座には、門徒式章をつけてお参りしましょう



ポルトップ収集
ありがとうございます

山口別院で換金され、県内福祉施設へ寄付されます。

今年は、30.7kg (空き缶約6,140個分)

東日本被災地支援募金

本堂に設置した募金箱へのご懇志です。

合計 24,436円

ありがとうございました。

□ 先日、大好きなロックバンド・サンボマスターのライブに行ってきました。多分、私が最年長ではないでしょうか。やはり50歳を目前にし、おまけに運動不足ですから最後まで飛び跳ねることはできず、自分の身体と相談しながら楽しまざるをえませんでした。来年こそは運動とダイエットを・・・と、毎年思います。[住職]